

且坐式
花口式

茶交交會一致

下

490

交會一致下

一〇花月鳥茶式

一 坐^さ禪^{ぜん}ハ廣^{ひろ}さを厭^{いと}ハ^と。ハ^とを^を發^{はつ}と^と本^{ほん}と^と次^じ。六^むを

四^しを^を半^{はん}子^して^ても^も催^{もよほす}事^{こと}有^あと^とい^いへ^へとも^{とも}畧^{りやく}儀^ぎの^のあ^あり^{あり}。

多^{おほ}人^{まん}教^{くわう}廣^{ひろ}地^ち友^{ゆう}の^の時^{とき}ハ^は色^{しき}ひ^ひと^と付^つル^る。忌^い子^しと^とる^るす

一 客^{きやく}ハ^は三^{さん}人^{にん}より^{より}七^{しち}人^{にん}まで^{まで}。主^{しゆ}客^{きやく}三^{さん}人^{にん}まで^{まで}も^も催^{もよほす}事^{こと}有^ある^る。

口^{くち}も^も。是^{こゝ}も^も臨^{りん}時^じの^の即^{そく}興^{きやう}より^{より}て^て。本^{ほん}式^{しき}より^{より}あ^ある^るは^は家^けあり^{あり}。

一 折^{おり}居^{すゑ}ハ^は十^{じゆ}餘^{じゆ}魚^{ぎよ}の^の折^{おり}居^{すゑ}と^と同^{どう}。札^{さつ}も^もその^{その}多^たり^り。今^{いま}

交會一致下

別べつ子こ杉すぎ居いと制せい衣い一いち折お面めは舞まい鶴つる子こと西さい幸きあり。

札さも格かく別べつは制せい衣いする幸きあまると。十種じゅうしゆ香かうの札さ折お

居いと折おり用もち表ひらの古こ雅がな家けは志しう一いち

一いち札さの表ひらの紋もんハ松まつと用もち呼よびすうとめし。梅うめ竹たけ菊きく

まともとまへやうと名なまると。松まつハ不ふ變へんのいろ

みまハ用もち取となる一いち。平ひら竟けい何なにももくア一いちかるまると

幸きみまと。制せい衣いの好このま志しとまへと。四し季きより

用もち取との有あると云いハ穿せん駁さくをまこ一いち。

一いち裏うらの紋もんハ月つきと花はなとの札さ外がい披ひ甚しん銘めいハは子こ仁にて

月つき也なり一いち。

一いち折お居い上かみ一いちや舞まい鶴つるより内うち二に目めと瓊じゆう規ぎと也なり。

但ただ一いち廣ひろ也なり通とほひを折おりハ五ごツ目めに折お居い
也なりと云いハ順しゆんは次つぎく一いちつういと幸きと

一いち札さの處ところ所ところハ表ひら正面せうめん。舞まい鶴つるより一いちツ目め
但ただ一いち廣ひろ也なりをいふハ五ごツ目め

一いち折お居い上かみ一いちは折お居い時ときハ舞まい鶴つるより外そと五ごツ目めやと
但ただ一いちを舞まいの角かくとく

折お居い上かみ一いちは折お居い時ときハ舞まい鶴つるより外そと五ごツ目めやと
折お居い下しも一いちは折お居い時ときハ舞まい鶴つるより内うち五ごツ目めに。

折お居い下しも一いちは折お居い時ときハ舞まい鶴つるより内うち五ごツ目めに。
但ただ一いち廣ひろ也なりをいふ

あハ折居だけニツよせて
あうちへらうくをくまう

一 遅時の札は裏ざしきぐこ。又入時の松と名乗て。
るーりのごどく松の紋をあうりきぐこ。

一 折居箱よすとゆいハ。折居を打むらきて出す。
谷居の入り或ハ下より出居折居。白札なす時を
いつてもかくのごとくして札をえ。

一 角うゑと云ハ。折居の一角を正面してとス
をいぬ。限のおまの折居。又字のそじうぬ板こ

して思すへー

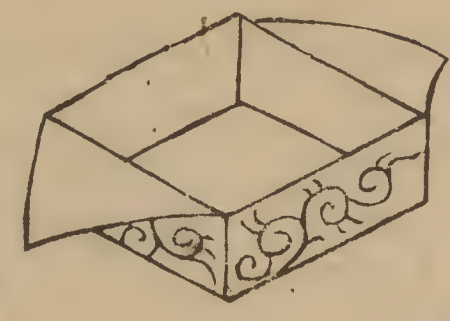
まのさ

まのさ

但し上りの折居の文字ハ下れへ向
下りの折居の文字ハ上れの方へ向



箱こまの折居



一 むすひくさと云ハ三つよさうてむす

ふまう

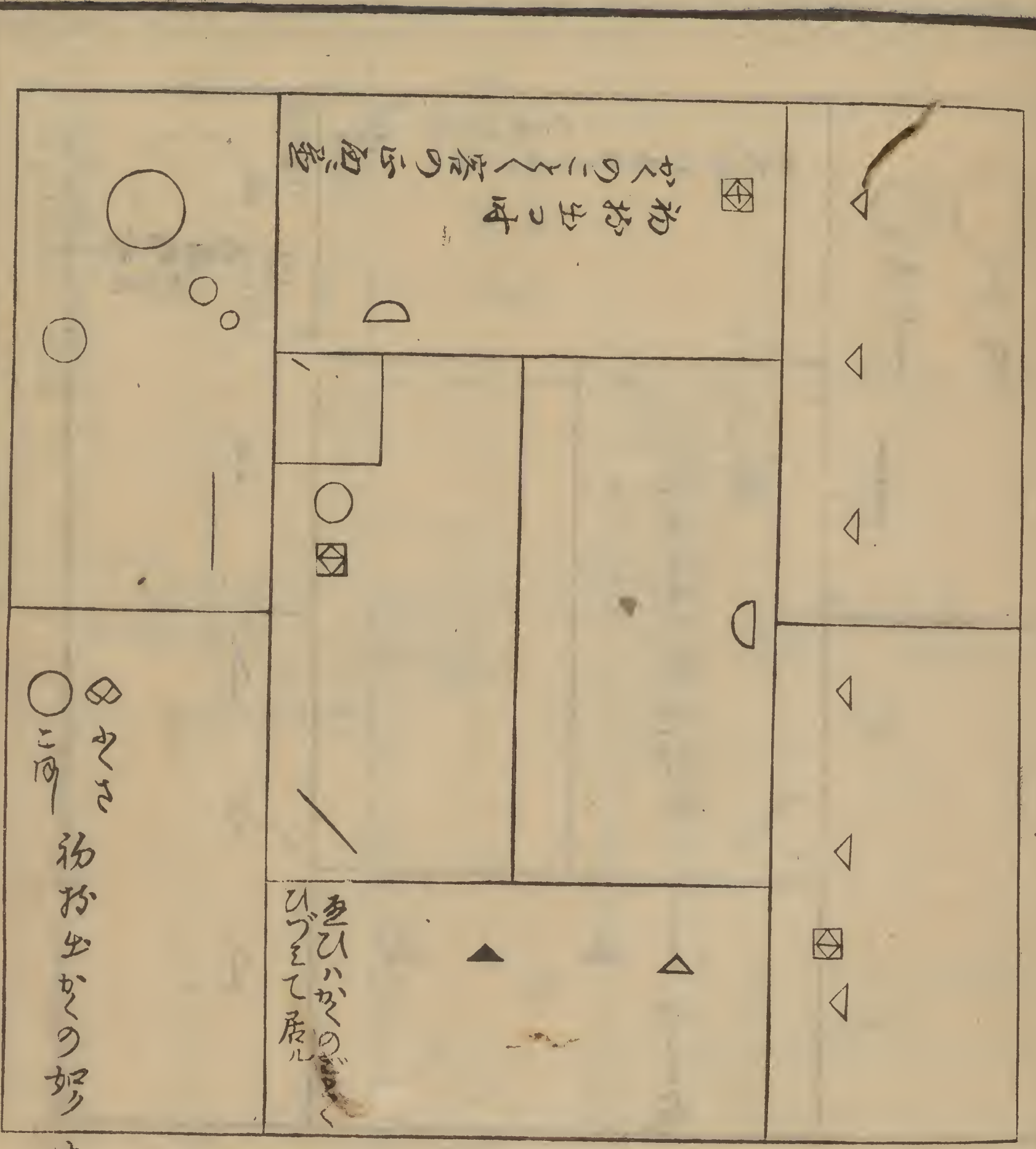


むすひくさ

一二三の向よきくさハなる葉やうやう
とてきく

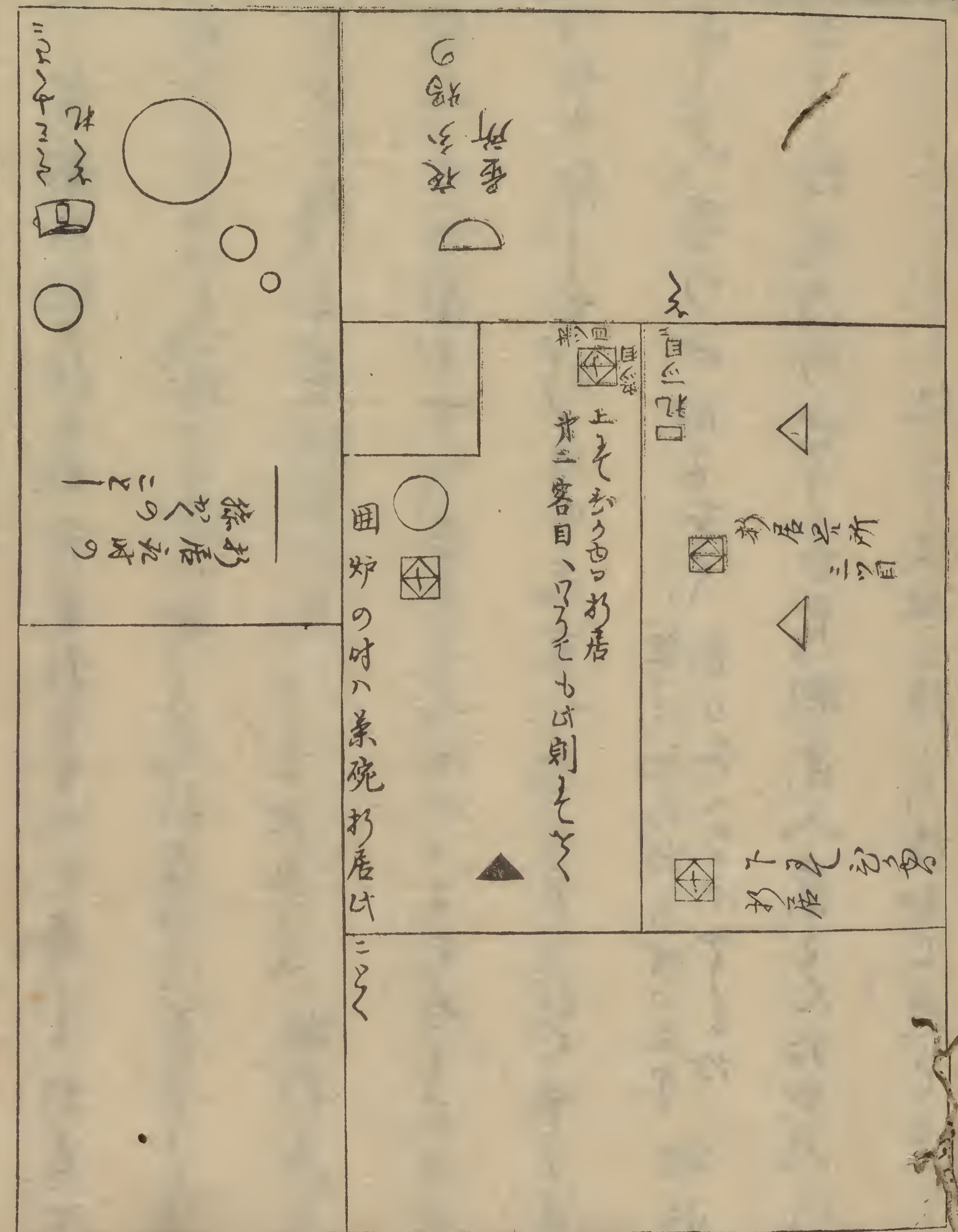
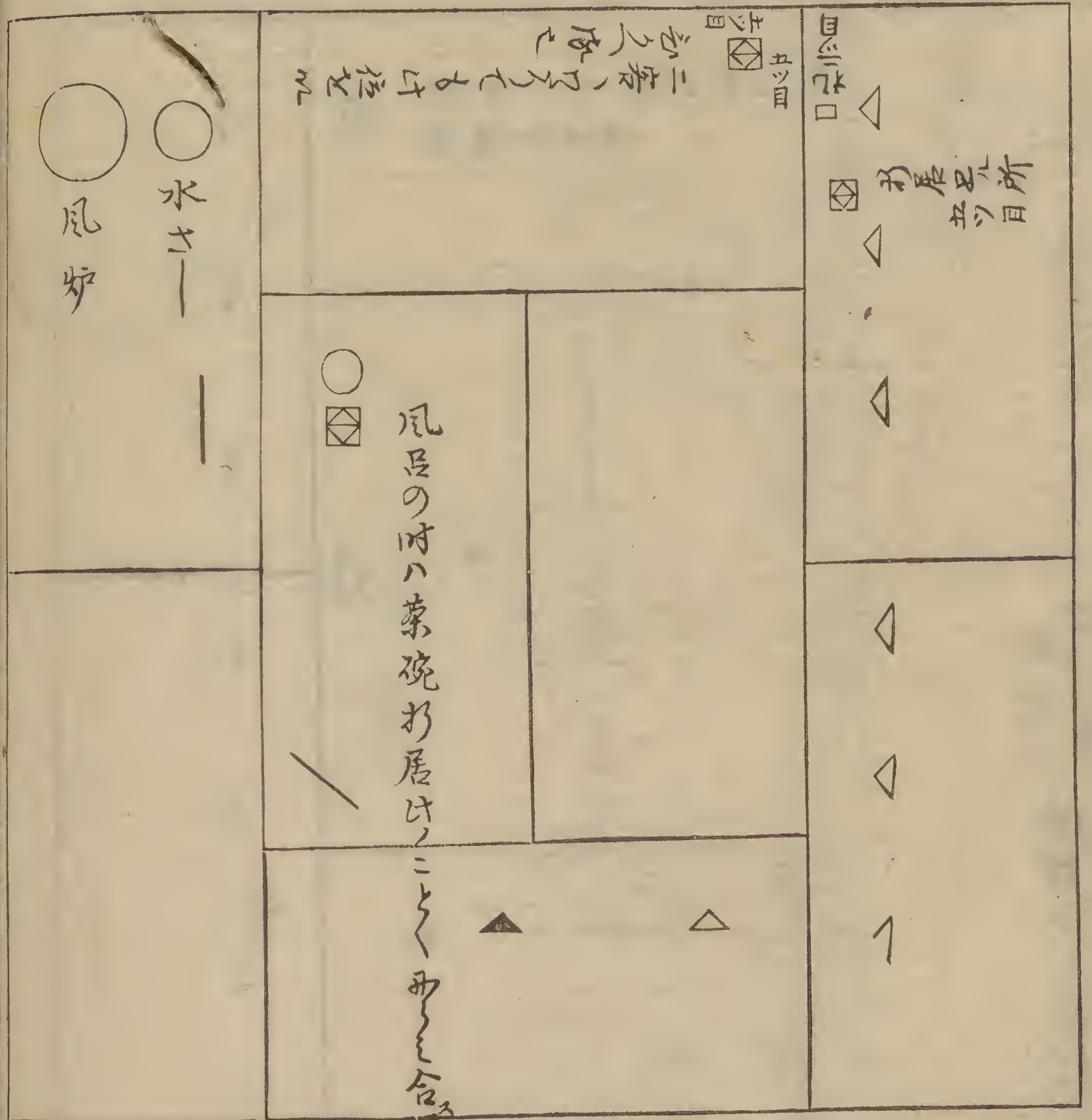
一札の紋ハ文字よても松の札をりとを

月花の紋のあを
役札と云



文庫一巻下

三四



一 客揃ひむうひ出。礼定敷をまちて。亭よりお居と
 左のひよりすく。勝ひ口ひ礼して。お居下ことき。うと猪
 子口をぬく。主客礼をなむ。是を想礼と云 扱お居を

先上上。左のひよりすく。右をうへ。まつうひわめて。上礼
 の向ひ礼して。お居の文字と客の方へむくやうひ
 ありうへ。客の正面ひをき。但し初めおり時ハ文字 扱水
 さしお出。左のひよりすく。扱入茶見おむ。左の

色ひ水ひさしひ組付ひ。扱二ひ一ひおむて。道をひを
 こひなひまひて。踏ひ也ひ。是の角ひをき。あひくひさひとひこひばひのひ右の
 方ひをき。扱假ひ礼ひはひくひこ。あひくひさひハひ結ひひひあひくひさひこ。

一 亭よりお居の礼ひを忘ひれひて。上客次へ礼を
 出ひして。お居を右よて礼。左のひよりすく。お居をひ開ひ
 礼をむひ。是所ひをき。お居ハひうひこひて。左のひよりすく
 次の人、出ひして。お居のどつ所并礼の 扱場もよき 次ひの客。又其次へ

礼して。お居右よて礼。左ひよりすく。礼を出ひ。是
 所ひをき。扱お居ひうひみ。又其次へ出ひして。かくの如ひ

して假かり祀さまで祀まつと。但たゞ一假祀をまかり祀するものや。量目定めか。一上の量目、准すま一

け禮次へ斗する右次礼と云。但たゞ一さい元初もと斗たうと。二たう斗

目ありハ礼なり。扱さり祀の人扱居さけを右の作法さうほうの

ことく元。札とむし。其札右のよの内うちは元也。扱居さけとみ

扱居下さけことくを扱あ居いは各札とより上うへ。札の紋もんと見て

各ま祭の家か事ことと。但たゞ一さい元初もとハ花斗はな名なの敷しき。是こゝと祀まつと

いいふ。月つきを名なのうさはハのむ。扱花さけと子のうさはときして。扱

居いよ札しをおおさめて。上うへ房ふ一いと祀まつと。上うへ祀まつと扱居さけハたり

右みぎよて上うへ祀まつとすすべて上うより下したに扱居さけハ右みぎよて元もとははて

下したより上うへおおりすす急いそハ元もとよて元もと右みぎよてままりりとすするる

扱さり祀まつ上う祀まつへ房ふででたたさま家かと見て。花はなよああららうう家か人ひと

立て。ここ房ふ一いのうさはよ祀まつして。ああららうう腰こしよんんせ扱さり祀まつ一い

扱さり祀まつとと扱さり祀まつとと事ことと。但たゞ一祀まつとと事こと各おの各おの立たて居い

一いけ祀まつと上う祀まつの人ひとよ南みなみとと北きたとと上う祀まつまで祀まつとと

ことと。二祀まつ目めの人ひとよ南みなみとと北きたとと二祀まつまで。上う祀まつハた初はつく

三祀まつめああららううハ。三祀まつめまで。二祀まつめの人ひとハ若わ假かり祀まつの人ひと

文書一巻一

小菊は連ハ一向池並うろく事なり。但一池と云ふこと事
各立て是の引やう

口傳及し流神
ハカリの事
ニととりめりハ池並うろくこと事なり

登居の人とあ花の人と入習さこ
登居の人とハ流あ花
あてて登居居人

あむの人とハ今花よ
あむりう人なり
翁按よけ初交斗社とわげり越

事作者の深き了簡有事二夜目よりのことく流初

まも入習隊時ハ若初花上池の人、あてう隊時ハ假中

の人上池と入習隊一志う教時ハ正客の礼よりむける

事あむべ一いりみとあまハけかり池の人縦令客の内下

まづ亭とふまきハ正方と正方のとの流初より上池

流初をま一あ花子隊一

初初むよあて一人右のどく。水二母一お立こ登居

社一。そくと池と志め。おむ一やとく。蓋並出

者の揚よとき。おむ一やかけて。正客礼とまき

常の色うし。茶子あ志るを。および祓ともふら

わらま一を記ス

一茶見んよせ。茶入もよせ。おむくゆぐむきて。茶入を

ふきておの場よをき。又ふくさうばき茶板ふきて茶
蓋の上よのせ置ぬ茶せんぬわー茶蓋よあ〜とよき。
あ〜さう〜して。こぼーの向よき。 諸、あ〜所の時ハ
但〜あ〜さハ亭とのあ〜所を月つき津く諸いあ〜さハ
後つユ又あゆ〜好〜や〜と却て不敬の理をう〜こ

ぬ柄ぬた、口〜。釜の蓋、さうして蓋よをき。
茶中ぬわ〜して釜蓋よのせ置。湯を汲と茶碗、入。

ぬ〜ゆ〜ハ釜よかけ。ぬ茶せんをとり。茶せん入。乃の如、
茶せんとりド志て。ぬ湯とこぼー。茶せんをふきて。

茶巾釜の蓋よを〜とぬお号よ。上池より、折居を初
の作法のこと〜とよとこ。 折居元初お来て、客の正面蓋

け時の折居ハむ〜やゆ〜 一、遍早〜してハむ〜やゆ〜親矩よき

ゆ〜親矩よき折居こ ぬ釜居の人までとよとこ。 但〜釜

とよと時親矩を釜居の人の ぬ釜居の人ハ折居の口内、
右の方、出ま〜と從号よえや

心あづりよ茶と忘〜。ぬ茶せんをぬ上テ。たのよよす人。

折居居の方、出〜。ぬ茶せん右、ぬたのよよとつきて。

折居の左、たの方、出〜。房つよよて折居ぬたりよ

す忽〜き。札をせ〜。折居〜み。札ハ右のよの裏ハ

丸也。其子そち居下とくせお品。各札の紋を見

月花を各案す。月まつみゆり花は後名月と名

声の徴を。お月よ菊でうる人の茶を丸喫む。花子

きりふこ。但一月花各案と

菊で一人の空居の人と立うのれこ。さうてお居札を

おさめてお居ハ上の所。房とち居ハ一房で

お空居の人と又合立うのれ年と假丸と茶も

人ハお居さう来たハ茶を人下ととき。まつ札と納めてお

居次ハ一。お茶とのじ年と。のもゆりてハすくよ空居

房一とく一。廣池をよて魚しの。と時ハ茶碗並所有

一立うのれ年とすんで人乃後を色札年と。強よ立て

やどよすり。しちちぶ

年とりの

一け二色りゆりお居より。退入す。退るくよ

時ハ札を裏ぐる一とき。お居よりゆりさくお時。

お札と丸習家。但一例のさくお居たしお札と

を足せ入ま次ハ上と若お札。お札を板む一裏ぐる一とき後ハお者

おさ時ハ札を上ハを年後ハ一。お退く時右の丸習る

お札を其飛よたのさうす念て。空居の人と立うのれ

空居よ新して。札ハおさくさの上。縦よとき。お空居

を以。茶を忘ぬし。忘れと云ハ花月の紋の茶、れこりれこ云

役礼と云ハ八月花の紋の忘れさう、

一月は菊アても退入ハする事なきとも。比ニ無うめの

月ハ初あま花の之いハ茶なきを退のまことりしとく理とくく。数服の

後ハ心よまうと一ハ。花ハ初のなり退の事ま隨意ハ

べー

一之替れ時。右のこく。列地の内を。礼礼替おどする。

よりて。むま入有れ時ハ。答居の人まづが礼ははきて。折居

のおさ内隊とまらして。菊の人答居へ立て時。共よ立て

入替も有る。答居の人。月は菊アても茶とのひ時

ハ。是ぜ非いかり礼ははきてのむあり。其時ハまづ茶は人

たの切ハ出ハなき。扱さるさの上ハ隊ハ礼ハと礼ハだ。

のよはす急て。かり礼ハ来り礼ハして。礼ハとあはなき

茶は人とさうのひこ。礼ハ茶の垂目。但一茶人礼時ハ

まも茶人とも茶と喫つ飲て茶碗ハ花の人の礼ハ

一答居の人 則初の人 花は菊アてもハ勿ち論ハ月ハ

わらうても大やうまづの退くと辞儀とと

をさうくさの上よとさせて。扱業と出^いし。花も並^なり
んと之習^しぬ。

その初花も並^なり又花もあつて退^の時の事。

右のごとく札とより久。をさうくさの上よとさせて。

扱業と出^いうらよ。上^いより三夜めの折居号つ。

け折居ハ下地よむして登居ハハ旦^のに其故^の

登居より茶^いと出^いよ。孫^いとむくよおよむ

まじよたのむくよ出^いを

登居の人退^の居^の時ハ右のごとく折居ハまハ

さぬよのまきと。登居の人又入らんとひいて

まつと名^のをさうく其むくをきハ折居を

登居ハ旦^のに。是ハ札と木^のさめさせんよのこめ。

又数^の遍^ののち角^のかけハ折居ハ登居の人

退^の居^のりトても旦^のに。是も札と納^のめさせん

こめ。扱登居の人ハ旦^のに折居あつハ札と納^のて

登^ののごとく木^の折居の人ハ旦^のに。又角^のかけハ折居

あゝハ札と油めて角かけて未、此の人、ととこ

一、空居の人も退。上此も花よ菊まで退くハ、各此

札と拵て入替つて。け時ハ上此へ居替る人退札まで

居り也ハ。折居ハ次の此へ譲り。但冬の縁より内、

元て此の場子 そより 折居ハ上此の又入までハ次の此の

地意じ上 おちん 幾人退トても皆此よ唯ズ一 角へは

人のほかひ すも

一、空居の人札と元時未此退トて居トハ。又其次ハ

札を元次く。元札入来ハ又空居へ元次く此も使

新と云。幾人退トても元札の有所まで傳ハ上ト。元札

入きて又傳、トとこ。空居の人札元とて又未ハ

此と元例の有り。

一、空居の人月う花うの役札まで退づくにちひ。未ハ

札と元時。未此も月う花うまで此もめくハくハ。空居

より新よりして来、折居と。折の飛よ。角うけて其

次ハ此と。是元札ハ枚入用のお君ハ。次の人うへ

て先^{まづ}乱^られ札を裏^{うら}ぐり入^いて。又其^{また}次^{つぎ}、上^のす。其^{また}次^{つぎ}の人^たも
 曰^いく裏^{うら}ぐり入^いて扇^{あふぎ}か^けあ^ぐりあ^と、房^ふと。未^ま泥^ぢ、
 房^ふア^て。未^ま泥^ぢより管^{くだ}居^い、の^の形^{かたち}と^と、^かて^て房^ふと。管^{くだ}居^いの
 人^{ひと}を^をれ^れ一^{いっ}枚^{まい}出^だす。其^{また}形^{かたち}下^{した}を^をき^き役^{やく}札^さハ^ハ又^{また}表^あと上^うす
 入^い。未^ま泥^ぢハ^ハ也^{なり}也^{なり} 但^た一^{いっ}抄^{せう}居^いハ 未^ま泥^ぢの人^{ひと}抄^{せう}居^い札^さを^をら^らき^あり
 と^と枚^{まい}の^のを^をれ^れと^と出^だす。其^{また}形^{かたち}下^{した}を^をき^き役^{やく}札^さハ^ハ表^あと上^うす
 入^い抄^{せう}居^いた^たり^りて上^うへ^へ也^{なり}也^{なり}。

但^た一^{いっ}今^{いま}す^すれ^れ所^{ところ}ハ^ハ扇^{あふぎ}か^けあ^ぐり^りの^の形^{かたち}に^にま^まづ^づ上^うす

の^の形^{かたち}あ^あり^りて^てき^き。上^の人^{ひと}札^さ入^いま^まて^て房^ふ一^{いっ}枚^{まい}時^{とき}。

乱^られ札^さと^と入^い未^ま泥^ぢハ^ハ房^ふと。未^ま泥^ぢ札^さを^を枚^{まい}出^だす。仰^{あやむけ}て

あ^あり^りの^の形^{かたち}役^{やく}札^さよ^よあ^あぐ^ぐり^りの^の形^{かたち}を^を枚^{まい}出^だす。有^あり^り抄^{せう}居^い

居^いと^とハ^ハ。也^{なり}也^{なり}。管^{くだ}居^いハ^ハ房^ふと。管^{くだ}居^いの人^{ひと}その^{その}

札^さを^を出^だす。仰^{あやむけ}て^てあ^あり^りの^の形^{かたち}役^{やく}札^さよ^よあ^あぐ^ぐり^りの^の形^{かたち}を^を

役^{やく}札^さと^とハ^ハ。表^あと上^うす。抄^{せう}居^いる^るみ^み未^ま泥^ぢハ^ハ也^{なり}也^{なり}。

未^ま泥^ぢあ^あり^りの^の形^{かたち}有^あり^りの^の形^{かたち}役^{やく}札^さと^とハ^ハ。表^あと上^うす。

入^いま^ま上^のへ^へ也^{なり}也^{なり}。上^の二^に人^にハ^ハ其^{また}抄^{せう}居^いと^と次^{つぎ}中^{ちゆう}上^のへ^へ也^{なり}也^{なり}。

事し 但し未だ未だも此の杖多しと事
小枝を裏ぐりと事勿論也

右ニ川筋と云事此れかつん也へ此れニ川筋

ニ川筋と云事此れかつん也へ此れニ川筋

ニ川筋と云事此れかつん也へ此れニ川筋

毎まままううららががけけ疎そららままハハ仕し換かへへ有ありりのこ

一列此のうらまも退ひくくううの時折居の内は役札

のとありりてて此これれををささ時しハハ折せ居いしてして此これれををささ勿な論論

あり。但し其時ハ折居の内は役札とハらうう出いし

うういいひひけけてて此これれををささ勿な論論

一かくのここととくく退ひ入いややどどううとと必かな定てとと必かな定て。遍へん救きう

よよささががととをを見みてて上かみ此これれよりより折居角かくかかけけてて已いははるるり。

角かくかかけけ一い折居ハ空居の人退居のきトトてもも已いははるるり。

一空居の人退居ト居いりり時し折居思おもうう来きままううハ。

例のここととくく茶ちををんん居いななかかしし出いししややきき。扱あ折居せ此こ時し

空居、膝ひざををむむららささううてて。札しとと納なめめ角かくかかけけななりり

又字ををああららうう入いてて房ふををここ。

折居をささととひひららくく時しままがが札しととああららうう居いるるここ

一角かけし折居の時ハ花ハ名葉ぬき。公居の人まむは仕とよれし

一角かゝる事上社の心まうせし。もとや仕とよりと云お尋し。上社居居りて折居其次よむ久居ら。是又其次の心まうせし。

け角くハ折やどらひし切者ふ切志を事くくハく志まぐし

一角かけし折居ハ仕とよしお尋ふ事ハ公居へ茶もどせし。元して下よき時。主客熱礼するなり。濃茶の仕とよの時のこと。扱たのこく仕とよふくさい茶しやふくおまうてさばさ月也候し。

右の熱礼すして各社と立整うて。最初さいの社ま並まのり居ありぬ。若列社の人公居居り居りハその人の社とゆきし。

仕とよ人元神よりの方ありハ仕とよてすぐよ乃色元入候し。若列社の人ありハ仕とよて神の方の

垂付られごとくみし。こぼしハおて之をも神さかの
 振出置とまし所は垂たりくさもさみて。こぼしの振ひりよさ
 振右の列陣の内のぬし振あへてすりこ。

一 右起礼すとして之方り列陣の内は居すとも。之
 暫時元神のごとく假かり礼りよ為つて。奉たの終おひをまらて。神

定さだてて後。こぼしより次背つり元入り礼りこ。但たしふくさハ
 さげこ

振水みこり元入りて上客かお居りと亭ていここの元終もとよよき
 不ふへ出いしとく。み字みあうえて亭ていこの
 亭ていこ元もと出い。

ろよして又起礼りすりこ。是こより元もとと元もとけりげて奉た生
 伴たよりのかひりする奉たこ。

今お居りごととも之方の心こらんとしてふまよ
 出いし奉たすすまとも定さだまは形かたちとするり礼りまろ
 へ一切いけきまんども雅が稱しょうよあつを

一 凡呂ぼんろの時お居り茶ちえんの出いし場ば少すく川がわ、心こ振ひる
 各おのよ志しれを

一 柳やなぎ抱かかるハ柳やなぎ抱かかるらひよ志しるがうへ

○濃茶付花月式

一 柳を月也。初めより柳を流茶黒から墨濃茶黒ハ
 水さしに組付とさ。板むうへ入ま。忌神すとして。亭と例の
 ごとく柳居拵出。上神よとき。板茶とんこびて蟹付、
 をき。濃茶黒引垂し。茶碗と水さしのおも組付とさ。板
 二 柳一拵出例のごとく拵みくさうへて。踏のむと垂し
 居てさて假かしこ神よ忌し。板花空うて上神さう。次礼して拵
 居正しりたのる。例のごとく柳とて。花よ高り人

各茶事たのる。板假神さう。拵居はれと入。火くま
 上へ居まらる。例のごとく。拵居上神へ納りて。板花の人
 立てこ柳一のむおま飛してあくさを腰よさけお。け付
くうとん事 板こ柳一拵立て。空居よまらる。神と志め。柳拵
 蓋墨よ掛ル時想礼たのる。板茶碗よせ。茶入よせ。袋と
 脱ぬがせ。袋ハ柄拵掛の訂よくおらう。柳の角よむうして。帛あき
 さばと。茶入ふと。たののごとく濃茶黒取し。但し中蓋と志
 免家半初め事。
 茶とんあきて茶中水さしの上とさう。
 上りり拵居正し事勿漏し

扱打居のま出りら。志づつは茶を忌。例のことく茶碗出し。
 帛かさもま入り出しこ。扱打居を取。各札の紋を各茶事茶
 の色いろ。但けけなも花斗各茶茶ルこ。月の札ハ取りても各
 のいろと。儀アヤニツて各茶事ハ去人の耻恥とと。扱花を各茶事
 へ取りてきて。茶居茶り打居打は札札と入りて上へ座まじ。
 上上神ハ茶見見とと。次の神神見見をま次次礼礼して茶茶とのと。
 次次くへへとと濃濃茶神席神の礼礼乃乃は整整つつ茶茶事事。但但く
 打居打り来来らハ。先先茶碗茶と次次へへ渡渡し。扱打居扱は札札と入り
 座座とと。

一 茶ハ茶居の人まで出出とものみ座座へ。茶居の人ハ茶
 見見出出へ座座と居居とと。茶のまり来来るとままつつ。若
 茶居の方へ居居ととへハ出出とと。未未神神までまでのと切切とと。是是と
 初初花花のと耻恥とと。
按按は茶ハ亭亭もも残残とと
 茶事茶古古例例と
 一 居居とと茶居茶は向向ひ居居り所所へ。ううと茶のまりとと。
 へハ。未未神神のと耻恥とと。又又座座とと。茶茶ととままり居居りせとと。
 神神までまでのと切切、茶見茶人人座座へへ。茶見茶とと。先先湯湯とと。

入。奥道とのと。扱下。扱扱礼する。但ちの茶ハ茶見と礼す。とくと扱礼了進も茶後の

時ハ奥道とのと下とさ扱扱礼する。濃茶付花月忌ハけ所。若客のちりり礼をけても受けを

扱礼まーと云況有いつど

一 客居小じうひ。茶どう来どうハ。礼てのし切。花のあ、茶碗

出ーとさ。扱居あう茶見と礼。下とさ。け所ニ扱礼まーと云況をいづいぶうー

扱茶見すうと。下とさ花を名あうー人しまうハ礼し。

若二夜ゆの花も客居の人みあううハ。け人すくは濃茶

忌礼替て濃茶忌ゆり勿端

一 茶忌礼替つ半。先ッ茶ーやと柳のりーハ上ケ甚子

よて濃茶忌あろー濃茶忌ハ猪の子の方より。柳の上う

礼のけ。扱濃茶忌ふとて。濃茶忌の礼ハ虫ー。扱茶見

す。ぎ。ふとて。茶中客の蓋よとく。け時上礼うりお居扱柳の

上る茶ーや礼。濃茶忌礼。茶と汲入。水さーの蓋礼

茶と扱ゆり花のさう。列礼より立替りて茶忌礼替。濃茶忌ゆり右のさうに

是より花の花月忌。扱一仕也時亭より仕也ハハ花の

水さーハ蓋すり時上礼うと式礼と。是三種の通をて其。礼の礼容に

時ハ礼とうけて。乃のごとくニ種と出シ。至。ぬこ何より
とこひへんじ。又列社の内の人仕人ハイハ乃のごとくウケ錯付。

二所おきて初の新みとき。本社と忌。ぬ亭とこぼし

礼入も。兼入兼入礼と出。休時。上社の人式礼を一一。け時

ニ種乃のごとく出シ。至。兼入礼入。水次抽出。水さし

水とそへ。水次礼入。又出。休乃と道と見てとと。但一亭と
ニ種と出シ

とらハ上客おへ。礼長法へ。亭と又出て。折居礼入。其法へ道
折居出シとべし。

を房し。ぬ礼するじ。但一乃の花月の時ハ亭と水拾

礼入て。折居礼入出。休時礼入す。ととも。濃兼付ハ

ニ種の道と見と。折居ありのちよ出ともものさしハ。

け時礼入す。け。従口受多し。其流とそめてその

源とよひぬ一一

。廣坐鋪通付之式

一 廣社安かよひの者の場ハ假社の九客付、

むづして居へ一一。号とあは

一 亭と假社と忌て。色い折居抽出。上社のおと。至。

水さし並付。茶入茶見し並付事なるを。ぬ己その
池より行く。

但し初亭と云ふこひ。後色ひ引事もある。又初色

とこびて後亭と引事もある。始終亭とよして仕

事もある。換格次中に。但し折居ハ始終通の
後より

一 右のこゝと斜まがに居て。二夜目の折居より。未だ

よりの折居ハ茶居、元次。茶居より出、家折居と

未だ、元次行く。但し未だ元居の時ハ甚上、元次。

元居より、元次と色ひの越ありす家の。園の茶の事

とわりへと越ありてし家の

一 茶見ハ月と名茶の人、とこひ。又中池ハ元

折居と云。茶居より未だ、元次。茶見のさしへ

みぬき出て。茶見と茶居、元次居を。すて孫の

して進退しす家の。

一 茶居の人。月の茶見とつ時に。かゝれ、茶見きて茶

のひ事の也。折居とまづ未だ、元次。さてかゝれ

